

What's Up?

March 2020



目次

- p.1 学校長の言葉・行事予定
- p.2 2年研修旅行（オーストラリア）
- p.3 国内・海外研修・国際交流
- p.4 千里高校の特色ある授業
 - p.5 千里フェスタ紹介
 - p.6 S G Hの取組
 - p.7 S S Hの取組
 - p.8 外国人スタッフ・留学生・最新機器・設備等

「千里から世界へ 未来への航海」

千里高校の教育方針

本校は1967年に府内65番目の普通科高校として開校し、2016年度に創立50周年を迎えました。教育方針は「真理と正義を愛する人間の育成、浄く直く明るい性格の陶冶」「信頼と敬愛の上に立つ人間の育成、人間のふれあいを通じての情操の陶冶」です。

国際教育とICT機器の活用

本校の国際教育は、1990年の国際教養科設置以降の実践と「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SELHi）の指定（2002～2004年度）を受け、開発した指導法が基礎となっています。特にこの時期に英語教育はコミュニケーション能力をより向上させるための指導法を開発するとともに、普通科を含むすべての英語の授業の指導法を統一しました。指導法については、4技能を重視するとともに、ICT機器の積極的な活用を図りました。現在はすべての生徒にタブレット端末を購入してもらい、それを活用した反転授業にも取り組んでいます。このICT機器の活用は他教科にも波及し、

様々な教科・科目でタブレット端末を活用した授業が展開されています。普通教室にもWi-Fiの環境が整備され、大型ディスプレイや短焦点プロジェクターで映像が見られます。

専門高校への改編と新たな挑戦

本校は2005年に国際文化科と総合科学科より構成される専門高校に改編されました。改編に伴い、以下の目標を掲げ、より充実した指導法の研究に着手しました。

- ・より多くの生徒が高い水準の国際性と語学力を獲得するための指導法
- ・総合科学科における指導法

文・理両方の基礎的学力の定着とそれぞれの専門性を高める指導法

それに伴い、2010年度には文部科学省から理数系のスーパーサイエンスハイスクール（SSHは2017年度に2期目の指定を受託）、2015年度からは文系のスーパーグローバルハイスクールの指定を受けています。その豊かな資金力も活用した結果、進学実績はもとより、課題研究の質が向上しました。次期学習指導要領では思考力・判断力・表現力が重視され、

答えが一つではない課題に対して個人が多様な人々と協働してあらたな価値を創造する力が求められています。本校では両学科ともに1年生より課題研究を課し、時代が求める力の育成を図っています。

高い志を胸に豊かな人間性と高い学力を培い、次代を担う国際人をめざそう！

本校には長短期の交換留学生が多数学び、本校からも多くの生徒がアメリカや台湾等の海外へ研修・留学の機会を得ています。2年生で行う研修旅行（修学旅行）については今後もオーストラリア等の国外での学習を継続して実施します。みなさんにはこのような環境を十分、活用し、海外の文化や歴史について学び、国際的な課題を多様な人々と協力し、解決してほしいと願っています。世界のさらなる繁栄と安寧に貢献し、次代を担う国際人へと飛翔することを期待しています。

校長 天野 誠

2020年度国際交流・海外研修・高大連携の主な行事予定

	国際交流／海外研修	国際理解／国内研修	高大連携他
4～6月		海外大学進学説明会	大阪大学国際公共コンファレンス派遣
7～8月	2年文化科研修旅行（オーストラリア） 2年科学科研修旅行（オーストラリア） SSH 米国科学研修 英国語学研修	1年国際理解教養講座 SSH 北海道研修 文化科Glocal フィールドワーク研修 SSH 生徒研究発表会	国際交流のつどい（関西学院大） Future Global Leaders' Camp（阪大） 大阪市大理科セミナー
9～11月	文化科「探究」企業訪問研修 文化科コリブリ交流（フランス）受入 国立中科実験高級中学（台湾）交流受入	大阪サイエンスデイ（第1部） 国際シンポジウム（校内） 科学の甲子園	FSG 国内研修
12月	SSH 台湾科学研修	文化科WWL 全国高校生フォーラム派遣 大阪サイエンスデイ（第2部）	
1～3月	文化科コリブリ交流（フランス）派遣	1年国際理解教養講座	インターナショナルフェスティバル（府立高校国際関係学科設置校）

2年研修旅行(オーストラリア) 2年生の7月に海外研修旅行(修学旅行)を実施しています

国際文化科研修旅行

ホームステイ

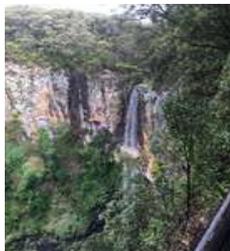
ホームステイでは、現地での等身大の暮らしや文化の違いやネイティブの英語など、他の方法では学ぶことのできない様々なことが学べます。また、自分たちの英語がどのくらい通じるのかを知るいい機会にもなります。はじめは緊張してしまいましたが、ホストファミリーが優しく話しかけてくれて徐々にコミュニケーションをとるのが楽しくなりました。現地の人々の温かみに触れ、一生忘れられない思い出ができたと思います。楽しい中にも沢山の学びや発見があり、私たちにとってかけがえのない経験になりました。



2年 三田 菜侑

アクティビティ

3つのコースに分かれ、海コースではサーフィン、山コースではオーストラリアの自然めぐり、そして動物コースではコアラと触れ合いました。私は山コースに行きました。スプリングブルック国立公園で鳥の餌付けをし、世界遺産であるパーリ



ングブルック滝などを回りました。バスで移動しながら、ガイドさんが公園に棲む生き物や植物について、たくさんの面白いお話しをしてくださいました。オーストラリアの壮大な自然に圧倒されました。

2年 牧野 友梨



学校交流

研修旅行初日、学校交流で1,5組はペノア高校、3,7組はロビーナ高校を訪問しました。到着後、アクティビティホールというところでバディと会い、モーニングティーに参加しました。その後、グループに分かれてボールを使ったゲームなどをしたり、出し物としてダンスを披露したりしました。オーストラリアの高校はとても広く、緑豊かでのんびりとした雰囲気でした。現地の生徒は皆フレンドリーですぐに仲良くなることができました。短い時間でしたが、日本との文化や生活習慣などの違いを発見することができ、とても良い経験ができました。また、英語でのコミュニケーションをとる際には積極性も必要なのだということも改めて感じました。今回学校交流で学んだことを日々の授業でも活かしていきたいと思います。

2年 村山 優奈

総合科学科研修旅行

フランクランド島

フランクランド島では主に島内散策、半潜水艇、シュノーケリングをしました。島内散策では、日本で普段見ることのない生き物や植物を紹介していただき、オーストラリアの生態系について学ぶことができました。半潜水艇では、濡れることなく海の中を見ることができ



ます。たくさんの魚や貝を間近で見ることができてとても興味深かったです。シュノーケリングでは、いくつかの班に分かれガイドさんと共に泳ぎました。思っていたより深いところまで行ったので慣れないうちは不安でしたが、慣れてくると海底を観察する余裕も出てきて様々な発見がありました。特に感動したのは、ウミガメと一緒に泳げたことです。テレビで見ると実物とは全く違い、悠々と泳いでいるウミガメの姿はいつまでも見ていられました。最後にはドローンで写真を撮っていただき、記念に残る一枚となりました。

2年 鎌田 沙良

熱帯雨林

フレッシュウォーター駅からキュランダ高原鉄道に乗って約33km先にあるキュランダ駅まで行きました。道中では落差265mのバロン滝や、『世界の車窓から』のオープニングで有名な景色を実際に見ることができました。キュランダでは年々数が減っているコアラとワラビーを間近で見ることが出来て、貴重な体験が出



来ました。またアボリジニの伝統的な楽器であるディジュリドゥを演奏している人に会いました。独特な奏法でひとつの楽器からいろいろな音を奏でていました。その後スカイレールに乗って地面の見えない熱帯雨林や巨大な川の上を通りながらケアンズまで帰りました。ガイドさんに教えて貰った「絞め殺しの木」が一番印象に残っています。現在減少が進む熱帯雨林について勉強出来て多くの刺激を受けました。

2年 村岡 志保

学校交流

ウォーリー・ステイト・ハイスクールでの学校交流では、1対1でバディーに学校を案内していただきました。6人ぐらいのチームになり、協力してクイズをしたり、スポーツをしたり、アートを楽しんだりしました。お昼やアフタヌーンティーの時間には、バディーとお互いの国の話で盛り上がりました。初めて知ることがたくさんあり、とても面白かったです。その後、出し物としてダンスを披露しました。知らない曲でも、盛り上げてくださったので、私たちも楽しむことができました。バディーとは数時間しか一緒に過ごしていないのにも関わらず、とても仲良くなることができましたのでお別れの時間に連絡先を交換しました。そして、研修旅行から約2か月間経った今も連絡をしています。そのように、研修旅行後もつながってられるような出会いができて、とても良い経験になりました。

2年 山野 桃花



国内・海外研修・国際交流

サンディエゴ アントレプレナーシップ研修(7/20-28)

この研修の目的は、大阪で起きている都市交通・エネルギー問題を解決するためのビジネスモデルを作成し、積極的に提案しようというものでした。私達はまず、医療系の研究をしているソーック研究所やサンディエゴのエネルギー生産・消費について展示されているイノベーションセンターを見学しました。次に、カリフォルニア大学サンディエゴ校でビジネスを学んでいる日本人研究者からビジネスについて学びました。そしていよいよ、この研修の集大成であるプレゼンの作成です。班のメンバーと議論を重ねる中で、自分の意見を積極的に発信すること、問題の当事者になって考えることの大切さを学びました。頑張って作ったビジネスモデルを全力で現地の大学生の皆さんに伝えきったときの達成感と充実感を、今でも思い出します。今、世界には様々な問題があります。グローバルな問題こそ、“自分ごと”として問題解決の意識を持つことが大切だということをこの研修で学びました。この経験を今後の活動に反映させていきたいです。

1年 吉原 美唯



フランス・コリブリ交流 (10/20~11/9)

コリブリ交流とは、2年生でフランス語を選択した人が応募できる交換留学で、まず10月にフランスからの留学生を3週間自宅で受け入れ、その後自分も3週間フランスでホームステイをして、それぞれ現地の高校に通うというプログラムです。私はこの期間にフランス語を学ぶだけでなく、留学生と様々な話題について深く話し、異文化を共有する面白さを発見しました。また、親交も深まりかけがえのない思い出ができました。普通高校生の間ではできない貴重な体験なので、少しでもフランスや留学に興味がある人にはぜひおすすめです。

2年 米澤 美希



さくらサイエンスプラン

千里高校で行われるさくらサイエンスプランとは、台湾の国立中科実験高級中学校の生徒と千里高校の生徒の間で交流をすることによって、お互いが持っている知識を深め合うことを目的としたプロジェクトです。台湾の生徒は、滞在中、千里高校や大阪大学で授業を受け、大阪サイエンスデイで発表をしました。私が受け入れた台湾の生徒は英語を普通に話し、自分自身の研究をしっかりとっていて、堂々と発表していました。その姿をみて私は日本と海外の基準の違いに驚きました。私は海外の基準に合うような柔軟性をもちたいと思いました。

1年 大上 千尋

S S H台湾科学研修 (12/25~29)

日本と同じ地震大国である台湾に行き、それを象徴する施設を見学しました。921地震教育園では、断層のずれが目に見えてわかり、グラウンドが隆起している状態が保存されていました。日本と違い、台湾では地震による壊滅的な被害を残すことで観光資源として活用するというのを知り、驚きました。滞在中、中科実験高級中学に通いました。そこで、英語や理科などを台湾の生徒たちと一緒に学習しました。英語での実践的なコミュニケーション能力を高められました。また3泊のホームステイでは、夜市や台中のオペラハウスに連れて行ってもらいました。この研修を通じて、自然や科学技術への見聞を深められたとともに、実践的な英語力の向上に繋がったと感じました。

2年 高木 友也



秋休み企業訪問研修

今回、私はヒロコーヒー伊丹いながわ店へ企業研修として訪問させていただきました。ここのコーヒー豆は全体の70%がサステナブルコーヒー(サステナブルな農業<持続可能な農業>によって生産されたコーヒーのこと)だそうです。生産履歴が追跡可能で、環境に配慮したものが主流です。これは社長さんが生産履歴の追跡がしたいために始めたそうです。このコーヒーの取り扱いを増やしていくことが、生産者にとっても、自然環境にとっても、発展的に生産を続けられる環境となり、持続可能な社会の実現に貢献することができます。しかし北欧人に比べ日本人はサステナブルへの興味や貢献度が低いことがわかりました。また、さまざまなお話を聞き、会社は単独で成り立っているのではなくたくさんの人やものとの信頼関係が必要であることを知り、自分自身の将来の仕事についての考え方も変わりました。初めてこのような研修に参加しましたが充実したものになりました。

2年 竹吉 双葉



千里高校の特色ある授業

第二外国語（スペイン語）

スペイン語の授業では、単語や文、日常会話などをスペイン語のニュースや音楽を聞いて楽しく学ぶことができます。ペアワークがたくさんあって、友達と和気あいあい勉強することができます。スペイン語は発音があまり難しくないのでルールを覚えれば結構すぐに発音できるようになりました。先生はとても優しいので質問しやすいです。スペイン語は世界で二番目に多く話されている言語なので、スペイン語が話せるようになれば、南アメリカへの旅行ではほとんど困りません！あなたもスペイン語の魅力に触れてみませんか？



2年 昌保 菜梨世

第二外国語（ドイツ語）

第二外国語の授業では文字の発音など基礎の基礎から教わります。分からないことだらけなので、初めのうちは手取り足取りです。また、ドイツの少し独特な文化についても知る事ができます。様々な文化を比較できることも言語学習の醍醐味ではないでしょうか。特に、ドイツ語は英語と共通の先祖を持つ言葉なので、今までの勉強では分からなかった英語の新しい一面を発見できる楽しみもあります。是非、皆さんも千里高校に来て新しい言語に挑戦してみてください。



2年 島谷 渚紗

時事英語

時事英語の授業は、BBCが過去に放送したニュース番組を基にした教材を使って進められます。普段使っている学習用の音声よりも速い、生きた会話に近い英語なので最初は聞き取るのに苦労しましたが、慣れると聞こえるようになり、とても楽しくなってきます。また、授業中には教材のニュースについてグループで話し合う時間もあり、とても良い刺激になります。宿題では、一人一人が英字新聞の記事を選んでその要約とそれに対する意見を書きます。最初は難しいですが、ALTの先生による添削を次に生かせるのでどんどん上達していきます。英語力を磨くのにこれほど素晴らしい授業はほかにありません。是非、時事英語の授業で英語力を磨きましょう！

2年 丹生 和浩

2年 GC Debate

In second year of Global Communication class, we learn how to communicate and debate with others in English in order to improve our English skills and to be able to participate actively in the world stage in the future. This class is taught by teachers who are native speakers of English, so our English skills improve efficiently. In the first semester, we

learn important tips for debate. Debate is a discussion between two opposite sides, affirmative and negative, held on one topic. We listen and write many opinions from different perspectives through writing and listening assignments, so that we can think logically and critically. Using these skills we learned, we actually have debates on variety of topics. Also, we could learn many things through preparation for every debate, such as how to think logically and quickly and express opinions in English. Although this is difficult at first, by participating in debate many times and actively talking in class, we get used to making arguments. Thanks to this class, I am able to express my opinions easily in other classes. So why don't you come to Senri and join this GC class to improve your English and learn various kinds of things?

Kana Matsuo 2nd year

3年 Topic Studies

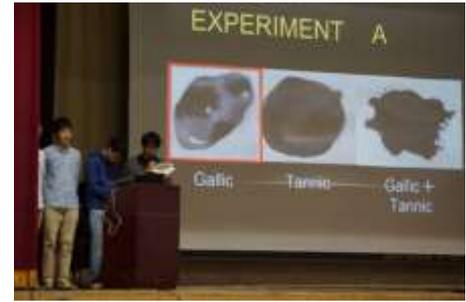
One English teacher once said that Topic Studies is the main dish in Senri high school, so I tried it. This class focuses on current global issues, and not only improves your English language ability, but also deepens your knowledge and understanding of current global situation. You will study different topics almost every week like problem of refugees, climate change, SDGs, child labour and gender equality, learn new vocabulary, prepare for discussion, give presentations, and write essays. Also, you will be evaluated on class participation, so you should work hard. The project that impressed me most was Model United Nations. The topic was climate change. Becoming one country's representative and negotiating with other representatives was a good opportunity for me to learn the problems logically and realistically. In addition, opinions on the problem differs from country to country, so it was interesting to know various points of view. Through this class, I became more interested in current global issues. I am glad that I chose this class. Why don't you take this class and enjoy special English class? I hope you will take this class.

Erina Nishimura 3rd year



国際シンポジウム(10/18)

「環境」をテーマとして、本校に留学しているフランス、カンボジアの生徒、この時期にJSTの“さくらサイエンスプラン”により招聘している台湾・国立中科実験高級中学の生徒、それに本校の日本の生徒が、それぞれの国の環境問題について発表し、質疑応答を行いました。発表や質疑応答をすべて英語で行うことで、英語を共通言語として各国とグローバルな課題が共有でき、本校の2つの学科の生徒が共通の課題で意見交換しました。同じテーマに対して、「SGH」「SSH」の両面から考察を行い、グローバルな課題にグローバルな考察が可能であることが共有されました。



千里フェスタ

第15回千里フェスタは、2月6日(木)オープニング・7日(金)プレフェスタ・8日(土)公開日に本校で開催され、1年間の授業・課題研究の成果が発表されました。公開日当日は、保護者、近隣の中学生、本校卒業生、教育関係者も多く参加し、下記の口頭発表、セッション、ディベートの他にもSGH、SSHの国内・海外研修、1年「探究基礎」「科学探究基礎」などの成果を展示・掲示しました。

国際文化科2年「探究」 口頭発表(SGH 生徒研究発表会・分科会)

「探究」では、SDGsを課題としたテーマの講座にわかれて課題研究を進めており、110グループが研究の成果を発表しました。

総合科学科2年「科学探究」 口頭発表(SSH 生徒研究発表会・分科会)

「科学探究」では、数学・情報・物理・化学・生物・スポーツ科学の各系(43グループ)にわかれて課題研究を行いました。外部の発表会にも積極的に参加しました。国際文化科2年『探究』 SGH 生徒研究発表会探究プレゼン

国際文化科1年「探究基礎」 ディベート

現実の課題を多面的に理解し、現実的な解決策を提案する力をつけるために、「探究基礎」の時間にディベートに取り組んでいます。千里フェスタでは、代表チームが次のテーマで対戦しました。

「大学入学共通テストでは話す能力を図るため英語民間テストを導入すべきか」「地域住民の生活を守るため訪日観光客の数に制限を設けるべきか」「外国人労働者受け入れのための特定技能制度から業種制限を撤廃すべきか」

総合科学科1年「科学探究基礎」 口頭発表

「科学探究基礎」では、科学の実験や観察、データの処理、論文の書き方など、研究を進める上で必要となる技能や方法を身に付けます。情報分野の課題として、自分の興味ある科学的なテーマについて、自分でおこなった実験やインターネットなどで調べ、発表する「科学プレゼン」を行いました。

国際文化科2年「グローバル・コミュニケーション(GC)」 ディベート

英語の科目「GC」で、現在の地球的問題について英語でディベートを行っています。千里フェスタでは代表チームの対戦を公開しました。

“Japan should be less strict about its immigration policies for refugees.”

(日本は難民に対する移民政策を緩和すべきである)

“We should be proud of Japan's current work culture.”

(私たちは日本の今の仕事文化を誇りに思うべきである)

“The World Expo 2025 and legalizing casino gambling will benefit the economy of Osaka.”

(2025年の万博とカジノ合法化は大阪の経済に利益をもたらすだろう)

“Our generation will see gender equality in Japan.”

(私たちの世代は男女平等を目にするだろう)



スーパーグローバルハイスクール (SGH) の取組

SGHの経験とWWLへの参加で21世紀型学力とキャリア意識の育成・形成を発展させます！

本校はスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受け、グローバルな課題を理解し、解決策を提案していくことのできる力の育成をめざしてカリキュラム開発を行ってきました。このページではその一部を紹介します。

SGHの指定は2020年3月に終わりますが、この5年で蓄積した指導経験や大学・企業とのつながりがあります。また、SGHの後継事業と言えるワールドワイドラーニングウェブコンソーシアム(WWLC)に2019年度から連携校として参加しています。

これらを活用し、現実の社会課題に取り組むことで「自分をどう社会に生かしていくか」を考えていく機会を今後も提供していきます。

1年国際文化科講演会

本校では、国際文化科1年生を対象に国際問題に関する研究者を招いて講演会を行っています。今年は大阪大学国際公共政策研究科博士後期課程2年に在籍されている田中翔(たなか・しょう)さんに『難民の生活から考える“共に生きる”ということ』というテーマでお話いただきました。

調査のためザンビアのメヘバ難民キャンプに滞在された時のご経験を、自ら撮影した現地の衣・食・住の特徴、医療の現状、人々の生き生きとした表情をとらえた多くの写真を使ってご紹介くださいました。難民や難民問題の定義、難民問題の原因、難民状態になったあとの問題などを、高校生にもわかりやすい表現で説明してくださいました。特に、難民の受入拒否に関するEUの例、保護されたあとの難民の権利(特に移動、居住、労働の権利)が制限されていることを教えてくださいました。

講演後のアンケートから生徒の皆さんの感想をいくつか紹介します。

- ・ 難民の権利というものをはじめて知った。それが正しく守られ、整えられたら難民の生活がよりよいものになると思った。
- ・ テレビやインターネットで知るアフリカや難民の勝手なイメージで支援するのではなく、リアルな現況を知って、何を必要としているのかをちゃんと理解して接することが大事だと思った。
- ・ いろいろな視点から物事を考え、難民に対する取り組みを積極的に考えていくことだと思います。国益を優先してしまい、難民を受け入れようとしない国がたくさんありますが、難民の方々も同じ人間で、できることもたくさんあると思うからです。そして、受け入れた後、共生についても考えていくことが大切だと思います。
- ・ 写真や資料を通してだけでは伝わらないことがある。文字で状況判断し、現地に行ってみる。

グローバルフィールドワーク研修

私たちは、大阪にある外国にルーツを持つ人達が共に学び、遊び、暮らす施設などを三日間に渡って訪れ「多様性」について考える研修に参加しました。1日目は豊中市のよなか国際交流センターで講師の朴さんや職員の方々に国際的な人権について教えていただきました。人権に関して私たちは、まだまだ知らない事が沢山あることを痛感し学んでいかなければならないと思いました。二日目には茨木市にあるコリア国際学園と茨木モスクを訪れイスラム教の研究者や信者、コリア国際学園の校長先生、生徒の方々にお話を伺い様々な視点から多様性や多文化共生について考えることが出来ました。そしてグループで「自分なら何ができるのか? どう思ったのか?」を伝え合い、考えを共有し当たり前とは何なのか?を再認識しました。そ

して最終日には本校の図書室で講師の李さんからご自身の経験を交えて人権について語っていただき我々も実際にロールプレイを体験しました。更には3日間の活動のまとめとして講師の先生方に考えを発表し、10月の第1回「探究基礎」の授業にてクラスの皆に報告し共有しました。

1年 安田 直泰



SGHニューヨーク研修

ニューヨーク研修では、“Diversity and Inclusion”をテーマに、様々なセッションやアクティビティを通して偏見や多様性について学びました。ワークショップに参加しているときだけでなく、様々な人種の人たちが暮らすニューヨークの街を歩いているだけで、文化の違いを感じることができました。LGBTに関する教育を行っているEva Vegaさんや、差別や偏見をなくす運動を行っているADLのワークショップ後は、日本では気にせずに使っていた何気ない言動も意識するようになりました。ADLで行ったアクティビティでは、他の人のアイデンティティを尊重するためには、まず自分のアイデンティティを理解し、表現することが大切だということを知りました。また、Tenement Museum(アイルランド移民が暮らしていたアパート)やMOCA(中国系アメリカ人の歴史に関する博物館)では、ヨーロッパやアジアからアメリカに移住してきた人々の経験について学び、元からその土地に住んでいる人たちが他国からの移民にどのように接していくべきなのか、ということを考えさせられました。Eva Vegaさんのセッションでは、日本とアメリカの性教育の比較や性に対する考え方の違いを学びました。Eva Vegaさんの勤めるTown Schoolの見学などを通して、日本に住むLGBTの人たちが生きづらくなってしまっているのはなぜか、そしてLGBTについての偏見や差別をなくし、LGBTの人々が平等に平和に暮らせる国にしていくには何が必要か、ということを深く考えました。この研修で参加したすべてのアクティビティを通して、毎日新しいことを学び、様々な人と出会い、改めて気づくことがたくさんありました。これらの学びや感じたことをしっかり伝え、将来にいかしていきたいです。



2年 松尾 佳奈 ・ 村嶋 葵

スーパーサイエンスハイスクール (SSH) の取組

第1期「スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH)」(平成22～27年度指定)で開発したノウハウを活かし、『グローバルな課題を解決し、サステナブルな社会を実現するために必要な探究力を備えた人材—21世紀型科学者—の育成プログラムの開発』を行っています。SSH指定校だからこそできる様々な研修を通して、科学への興味・関心を高め、科学的に探究する力の向上をはかり、将来、科学・技術の幅広い分野で活躍し、国際社会の発展に貢献できる人材の育成をめざしています。第2期の指定から、総合科学科だけでなく、国際文化科の皆さんも参加できるようになっています。ぜひ積極的に参加してください。

- サイエンス・レクチャー (大学教員や企業の技術者の方による講演) ○サイエンス・キャンプ
 ○大学との連携授業 ○海外の科学系高校との交流 (国立中科学実験高級中学(台湾)他)
 ○高校生研究、研究成果の発表、科学系コンテストへの応募 ○小・中学生対象実験教室や観察会、他校との交流

SSH北海道研修 (8/4～8/6)

北海道研修は宇宙科学について学ぶ研修でしたが、その他にもたくさんの学びや、貴重な体験を行うことが出来ました。

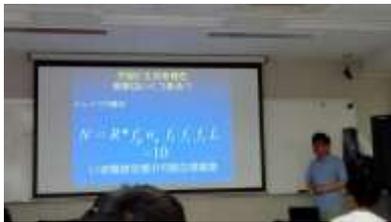
1日目は、北海道大学大学院博士課程の松岡さんから火星の衛星について講義を受けました。松岡さんは火星の衛星を「捕獲説」という説で説明しようとしておられました。捕獲説は少数派ということですが、私は皆と違う考え方をする松岡さんがかっこいいと思いました。また宇宙についての講義だけでなく、大学選びのポイントや重視すべき点などについてもご教授いただけ、とても有意義な時間を過ごしました。

2日目は、倉本圭教授から主に地球外生命体の可能性について講義を受けました。一番興味をもったのは、プロキシマ b という星の大気大循環モデルでした。このモデルにより、プロキシマ b の実態を知ることが出来て、このモデルの迫りに感銘を受けました。この星は恒に同じ面を向けているので気温差が生まれ、この気温差により半面が砂漠でもう半面には雪が降り、その境目に緑が生まれ、そこに生命体がいるかもしれないとのことでした。すごく神秘的だと感じました。

講義を受けた後、名寄市立天文台に移動して、高木聖子さんから研究者になるまでの経緯や研究者の生活について講義を受けました。研究する時間帯は、個人個人で好きなように決められるということでした。だからこそ、研究者は研究する意欲や熱量が大切だと思いました。その後、天体観測をしました。普通の望遠鏡に比べてはるかに精密な望遠鏡を使ったので、星のクレーターの詳細まで見る事ができました。また、街明かりが少なく肉眼でも星がよく見え、貴重な時間を過ごせました。

3日目には北海道大学総合博物館を訪問しました。この博物館では学科ごとに展示がされており、元々あまり興味なかった学科にも興味を持ち、将来に対してのビジョンの幅が大きく広がりました。この3日間で、宇宙科学についての知識だけでなく、進路や将来の仕事のこと、物事に関する考え方など大切なことを学びました。私はこの3日間の経験を活かせるよう、日々励んでいきたいです。

1年 鳥越 克望



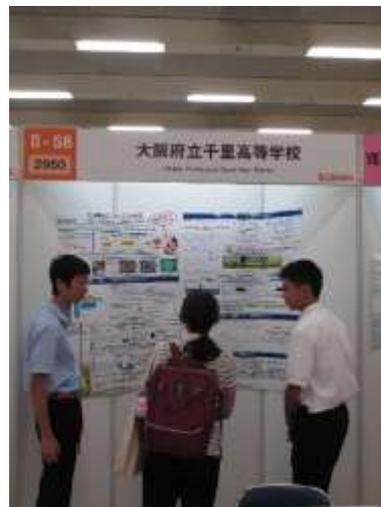
成果発表会です。第一部はポスター発表、第二部は口頭発表があります。私は「カラメル化の促進物質の研究」について発表を行いました。緊張しましたが、私の研究について多くの人に伝えることができました。また、データの取り方や実験の手法についてのアドバイスを受けることもできました。他の高校の研究はどれもハイレベルで、魚類が鳥などの敵に遭遇したときの行動についての研究が印象に残っています。今回の発表会で、多くの実験を進めていくためのヒントを得ることができたので、この経験を糧にこれからも研究を進めていきたいです。

2年 田中千都

SSH生徒研究発表会 (8/7～8)

私たちは、約1年半研究してきた成果を、神戸市で開催されたSSH生徒研究発表会にて発表してきました。2年生から始まった科学探究の授業で、仲の良かった友達同士で研究を始めました。私たちのテーマは「化学発光」というもので、当初は光らせることすら困難でしたが、それが光った瞬間はすごく幻想的で、どんどんその魅力に引き込まれていきました。予想もしない結果が出た時はそれぞれが頭を捻り、先生からもたくさんの助言を貰って、なんとか乗り切りました。また、外部のイベントや他校の発表にも積極的に参加し、いろいろな人からたくさんの質問や助言を受けることで、その度に研究が前進しました。3年生になり、この発表会に出ると決まっただけで、休日に実験を何回も重ね、ポスターも時間をかけて作りました。当日はたくさんの方がポスターを見に来て、その前で何回も発表しました。声も枯れ正直大変でしたが、みんなが一生懸命聞いてくれてディスカッションで内容も深められたので、濃

密な時間で楽しかったです。研究は受験勉強の傍らであったため、すごく辛い時もありましたが、一生忘れられない素晴らしい経験になりました。またこの研究を通して、色々な視点での考え方や、スライド制作や発表のテクニックなど多くのスキルを得ることができ、将来にも繋がる大きな意味があったと感じています。



3年 佐藤 雅秋・毛利 勇登

大阪サイエンスデイ (10/19、12/15)

大阪サイエンスデイは大阪府内の高校生などに対し、理科や数学に関する興味・関心をさらに喚起するため、日頃から各学校で取り組んでいる科学・技術に対する課題研究の

外国人スタッフ・留学生・最新機器・設備等

外国人スタッフ



千里高校にはネイティブスピーカーの先生が4名（ネイティブ英語教員1名とNET3名）います。授業中はもちろん、放課後や昼休みにも話すチャンスがたくさんあります。国際文化科スタッフルームに常駐していますので、ぜひ気軽に声をかけてください！

先生方からのメッセージ（写真左から順に）

Ghislaine Kersten:

Hello, my name is Ghislaine, but please call me Ms. G, or G. I'm an American, and a long-term resident of Osaka. I have many interests, but especially enjoy creating things. Feel free to say "Hi!" or ask me any questions you like.

Sophie Ang:

Hey guys! I'm Sophie. I look Japanese, but I am not! I come from Toronto, Canada. I love dancing, eating chips and going to Tokyo Disney! Let's enjoy English together. See you in Senri (^▽^)

Shivana Jalim:

Hi there! I'm Shivana and I'm from the Caribbean islands of Trinidad & Tobago. I enjoy watching dramas/movies and going to karaoke. I can't wait to meet you!

Narin na Ranong:

Hey! I'm Narin and I'm from Melbourne, Australia. I love food, coffee, games, and taking pictures. Please come by the office and say 'hi' any time!

体験留学生／ありがとう千里



カンボジアから来た留学生、ワタナーと申します。千里に来られて、自分の家ように感じることができて、素晴らしいと思っています。初めは日本語があまりわからなくて、友達ができるかどうか、すごく緊張しました。しかし3日後くらいに、クラスメイト達に話せて、私に様々なことを案内してくれて、学校生活は楽しくなりました。先生たちも優しく、いつも私にいろいろなことを教えてくださり、本当に感謝しています。みんなと一緒に英語を頑張ってお話して、友達は私に日本史や世界史や国語もたくさん説明してくれて、だんだん私の日本語も上手くなりました。定期テストもみんなと同じ日本語で受けて、読めなくて、意味もあまりわからなくて難しかったのですが、頑張りました。そしてこの7ヵ月くらい、千里の生徒のみんなと先生たち、特に2年1組のみんなのお陰で、私の留学は桜の美しさほどになりました。みんなと一緒にもっと勉強したい、千里で3年生になりたいけれども、自分の国に帰らなければいけないので、残念だと思っています。2年のみんなは、受験生になるので、やる気を持って頑張ってください。私は永遠にみんなのことを応援しています。お世話になりました。本当にありがとうございました。

体験留学生 2年 セレイソワタナー・モン

ICT機器・実験設備



本校では多くの機器・設備を活用した教育を行っています。

・コンピュータ教室は4つあり、情報・英語・社会・理科・探究など様々な教科で利用されています。放課後も生徒が調査や発表スライドの製作などのために使うことができます。
 ・全員が入学時にタブレットコンピュータを購入します。英語をはじめとする映像・音声・文字データがプレインストールされていて、学習に利用します。数学の参考書もタブレットで読めるようになりました。また、校内Wifiを使って教材を受信・ダウンロードしたり、課題を提出したり、アイデアを共有したりするために使われています。また、全学年の教室にプロジェクターが配備され、タブレットのデータを無線で送って大画面に表示させることができ、授業や発表会・HR活動に使われています。

・さらに理科棟（サイエンスセンター）には、大学にしかないような実験器具・機器があります。また自習のための第2図書室や、プレゼンテーションルーム、合宿も可能なセミナーハウスもあります。

千里高校のホームページへようこそ！

学校行事や国際交流の様子をはじめ、様々な千里高校の活動を紹介する公式サイトです。国際文化科、総合科学科の説明はもちろん、常に最新の情報をブログの形で写真と共にお伝えしていますので、このホームページを見れば千里高校のすべてがわかります。まだ見たことがない人は、ぜひ一度アクセスしてください。

<http://www.osaka-senri-hs.net/>



大阪府立千里高等学校

〒565-0861 大阪府吹田市高野台 2-17-1 TEL 06-6871-0050 FAX 06-6871-2587

公式Webサイト <http://www.osaka-senri-hs.net/>